

琉球放送

活動名	小学校社内見学「ニュースができるまで」
実施期間	令和6年10月～令和7年1月
実施回数	社内見学4回

【実施学校】

中城村立津覇小学校、豊見城市立ゆたか小学校、オキナワインターナショナルスクール、屋我地ひるぎ学園

【事業実施の成果・課題】

- ・多くの児童が民教協のVTRにくぎ付けになっていた。視聴中、クスッと笑う児童や「テレビニュースに必要なこと」と出てきたときに、熱心にメモを取る児童もいた。わかりやすく要点がまとめられていたため、より児童たちに大事な部分が伝わりやすかったと感じる。質疑応答の際にも「フェイクニュース」の見極め方やニュース項目をどのようにして見つけているのかなど、より具体的な質問が多かった。
- ・タイミングよく制作現場の見学ができた学校もあり、教諭からも「感激した」との感想を寄せられた。
- ・社内見学の時間が押したために足早にアナウンサーのお仕事説明を終わらせた点が課題。

【事業担当者・講師の感想】

- ・どんなことをニュースに取り上げているか？そもそもニュースって何だろう？などの問いかけを行うことによって実際に子どもたちが身近な出来事に置き換えて考えることができていたと感じる。
- ・技術のお仕事としてテレビスタジオ内でスタジオのセットや緑バック（クロマキー）/照明の説明なども行ったが、スタジオ内にあるたくさんのカメラを見て子どもたちだけではなく、引率教諭らもテンションが高くなっているように感じた。
- ・説明だけではなく、実際のモノづくりの現場を見せることで子どもたち自身の学びになり、より充実した社内見学になると感じた。
- ・学校によって、子どもたちが興味を持つ分野も異なっていたがメディアの責任や中立性について考えている児童もいた。そのため、質疑応答ではメディアの存在意義やニュースがほかのニュースに影響されることの有無、配信をして影響を感じる事などについての問いが多かったように思う。
- ・より身近なことに子どもたち自身が置き換えて考えてくれるとさらに内容の理解が深まると感じた。今後も「地域に寄り添う」放送局の役割を全うしていきたい。

【教諭・子どもたち・視聴者などの感想】

＜津覇小学校の児童の感想＞

特に印象に残っているのはニュースに必要なことです。速報性・正確性・公平性・公共性があって、ニュースが成り立っていることがわかりました。今日はありがとうございました。

【実施後の御礼メール】

＜津覇小学校担当教諭から＞

「本日は、社会見学の受け入れ本当にありがとうございました。
バスの車内でも体験したことを笑顔で語り合う子どもたちの姿が見られました。
貴重な体験をさせていただいた事、子どもたちに代わりお礼を申し上げます。ありがとうございました

＜オキナワインターナショナルスクール担当教諭から＞

「スタジオ見学では、実際の撮影機材やセット、またテレビショッピングの制作を間近で見学させていただき、大変感激いたしました。

また、プロのスタッフの皆様が、どのように映像や音声を作り上げているかについてもそれぞれ詳しくご説明いただき、テレビ制作の裏側にある細やかで大変な作業とチームワークの重要性、また責任の大きさを改めて実感いたしました。

今回の見学を通して、子どもたちがメディアについての理解を深め、今後テレビやラジオとどのように責任を持って付き合っていくべきかを考え、この学びを今後の学習や人生に活かしていけたらと思います」※略